

## 令和六年度 第四十八回入学式

### 式 辞

桜の花が春風に舞う中、今年もまた、希望に満ちた新入生を迎える季節が巡って参りました。この春爛漫の佳き日に、御来賓並びに保護者の皆様の御臨席を賜り、令和六年度入学式がかくも盛大に挙行できますことは、私ども関係者一同、大きな喜びであります。御臨席を賜りました皆様に改めて感謝を申し上げます。

ただ今、入学を許可しました、普通科三一九名、人文科四十名、合計三五九名の新入生の皆さん、本校へのご入学おめでとうございます。第四十八期生となった皆さんの入学を在校生並びに教職員とともに、心から歓迎いたします。

また、これまでお子様を日々温かく見守り、育ててこられました保護者の皆様にとりましても、お喜び一入のことと拝察し、心からお祝い申し上げます。

さて、本校の歴史を紐解くと、昭和五十二年（一九七七年）に全日制普通科高校として、この地に開校し、十七年後の平成六年（一九九四年）には県内唯一の人文科が開設され、現在に至っています。そして、皆さんが三年生となる二年後の令和八年度には、節目の創立五十周年を迎えます。卒業生は約一万八千人にのぼり、これまで多くの有為な人材を社会に輩出してまいりました。

そのような実績ある本校の扉を皆さんは自らの力で叩き、開けました。そして、本校歴史の四八ページ目に、皆さんの名前と足跡が刻まれるのです。いよいよ今日から始まる本校での生活に誇りと責任を持ち、三年間の生活を送ってほしいと願っています。そこで、入学に際し、私から二点お話をします。

まず一点目、本校の校訓「文武両道」についてお話をします。

本校には開校以来、文武両道の精神が息づいています。本校はなぜ文武両道を大切にしてきたのか。それは文武両道が、単に勉強と部活動の両立だけでなく、知・徳・体の調和のとれた心豊かな人間を生み出していくという、教育の理想を追求するものであると考えられてきたからです。

また、両立という困難な課題に立ち向かう中で、忍耐力や精神力、所謂「折れない心」を鍛え、自らの可能性を信じ、追い求める強い意志を持ち続けてほしい

といった願いも込められています。こうした文武両道の精神は昭和、平成、令和と時代を超え、第一期生から現在に至るまで脈々と受け継がれながら、在校生一人一人にしっかりと根付いています。この文武両道を追い求めるという姿勢において、本校はとても忙しい学校といっても過言ではありません。しかし、多くの先輩は、それが当然のことと考えていますから、皆さんも負けずに挑戦してほしいと思います。

次に二点目は、「本校での学び」についてお話をします。

皆さんが生きていくこれからの社会は、どれだけ勉強したか、どれだけ多くの知識を得たかに留まらず、何が出来るようになったかが重視されます。

そこで、本校では何が出来るようになったかといった力をつけることを、皆さんに求めています。知識だけで学力を測る時代は、もはや過去のことです。身に付けた知識や技能の上に、生きるために真に必要な力としての、思考力、判断力、表現力、論理的に物事を考える力などが求められます。さらには、自分一人だけでなく、周囲の人と協働しながら課題を解決していくといったバランス感覚や調整力も求められます。

その点において、皆さんは自ら問いを立てたり、答えの定まらない問いに挑戦するなど、先行き不透明なこれからの社会において、生きて働く力をつけてほしいと思います。私達教職員も皆さんにそのような力をつけられるよう、授業の工夫・改善に努めてまいります。

以上、入学に際し、校訓「文武両道」に込められた意味と、「本校での学び」について、お話ししました。

最後に保護者の皆様に申し上げます。本校の教職員は、豊かな人間性と各教科・科目において高い専門性と優れた指導力を備えております。本校の教職員が力を結集して、お子様の教育に情熱を傾け、一人一人が大人へと成長していく手助けをさせていただきます。

私ども学校といたしましても、御家庭との風通しを良くすることで、教育効果が間違いなく上がるものと考えております。特に、一年生においては、早く新たな環境に慣れ、自分の生活リズムを確立すること、良好な人間関係を構築するこ

とが求められます。併せて、ややもすると疎かになりがちな、学習時間の確保にも格別の御協力をお願いいたします。

結びに、三年後の卒業式の際、ここにいる全ての生徒、そして保護者の皆様が「春日部東高校で三年間過ごせて本当によかった」と思えることを心から願い、式辞といたします。

令和六年四月八日

埼玉県立春日部東高等学校 校長 竹本 淳